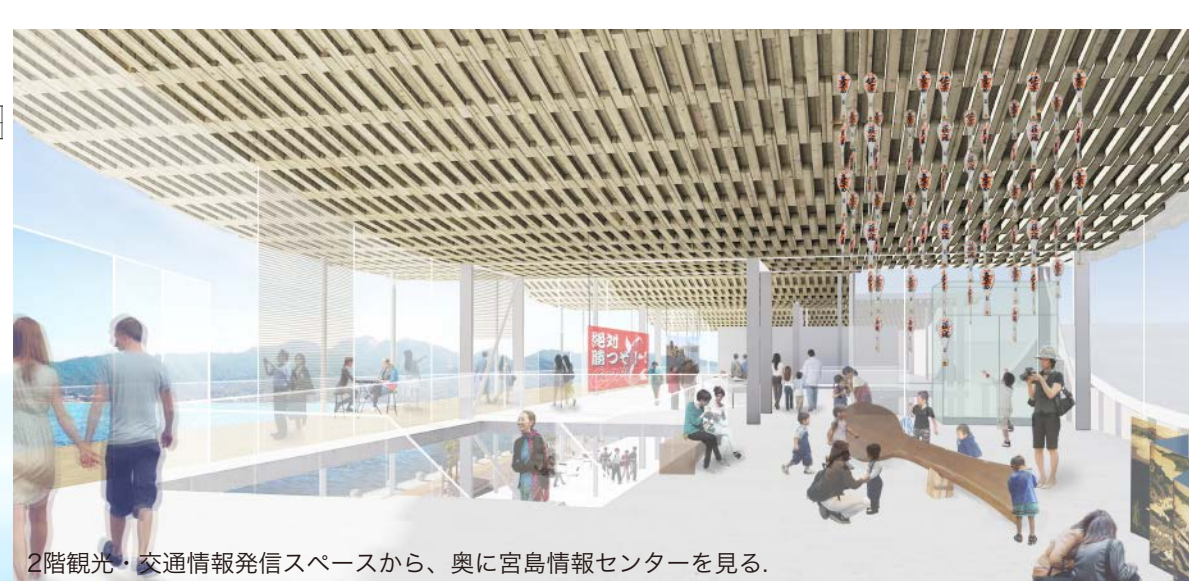
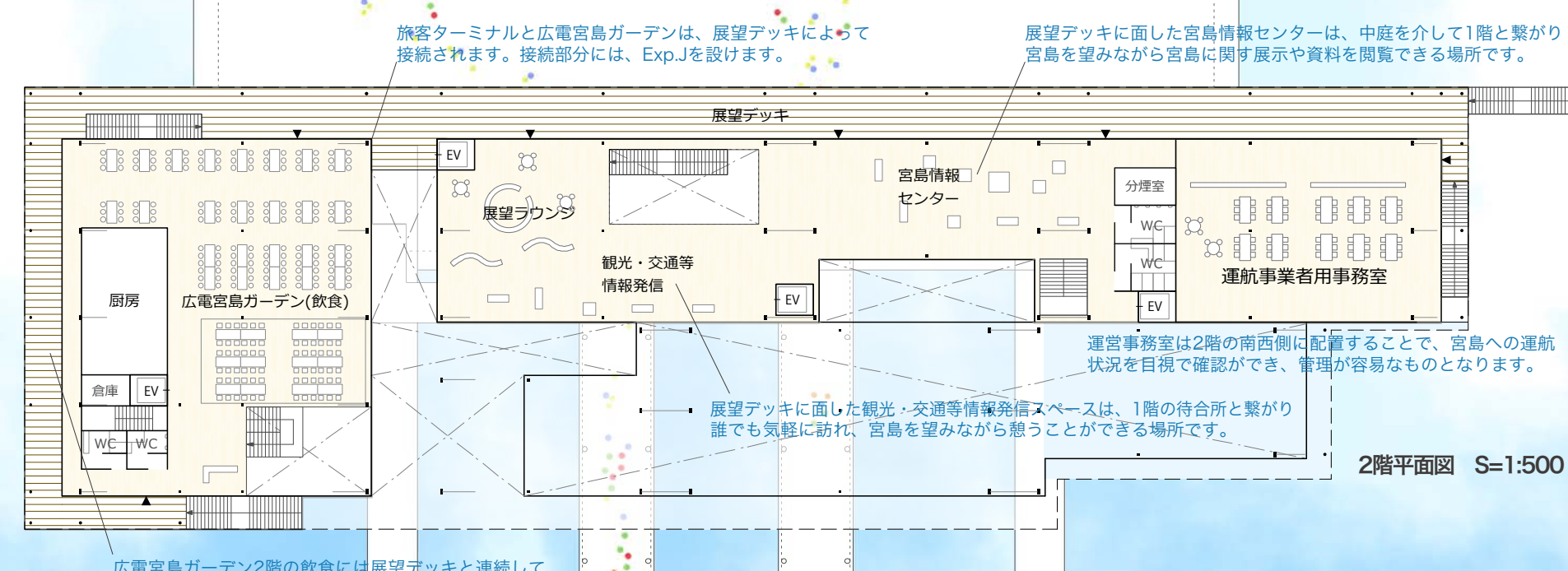
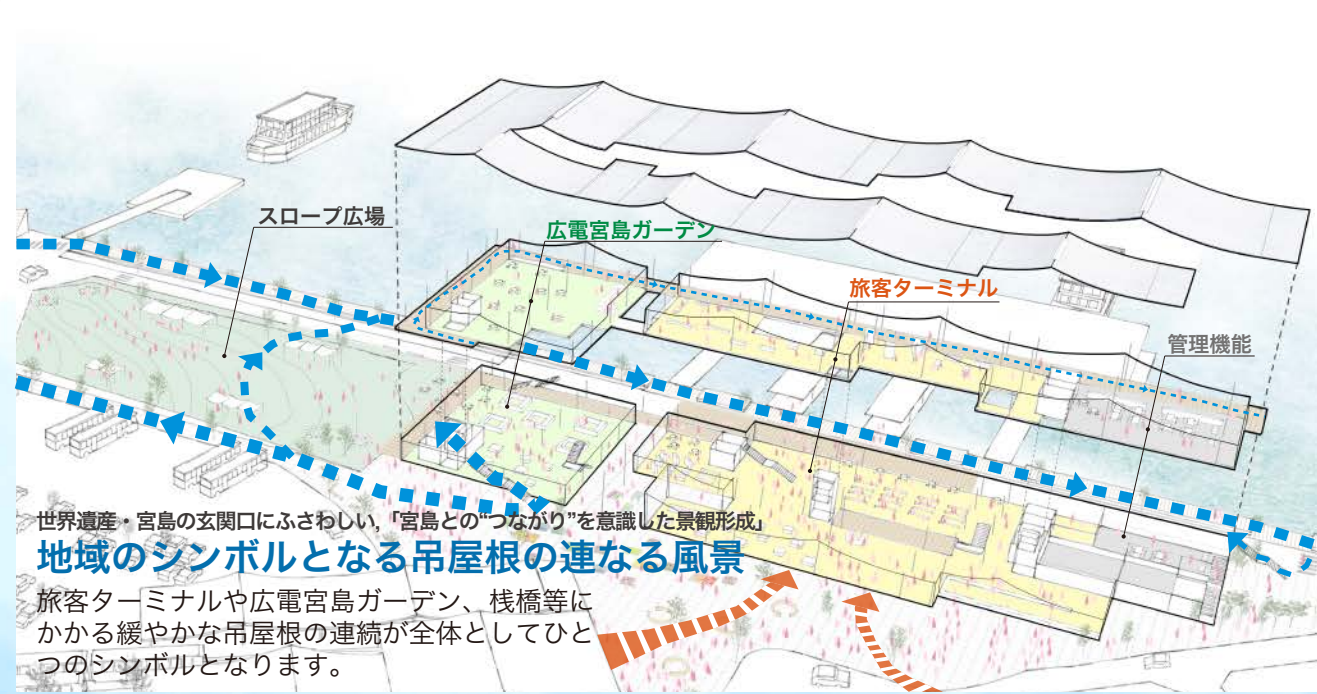


「なみ」間に見える敵島 - 宮島と宮島口をつなぐ大らかな屋根の交流拠点 -

世界遺産宮島への玄関口である宮島口に、地域の人や観光客など様々な人・もの・情報をつなぐ交流の結節点として、新しい顔となるような建築を提案します。緩やかな吊屋根の連続は、宮島をはじめとする「山なみ」や、敵島湾を漂う「さざなみ」、宮島口地域の「まちなみ」と呼応しながら、宮島口の新たなランドマークとなります。



広電宮島口から旅客ターミナルを見る。海と連続する明るく透過性のあるファサードは、宮島への眺望を確保しながら、人々の活動がまちへと広がる交流のインターフェイスとなります。



木造吊屋根の大架構がつくる大らかな空間

軽量屋根の実現：大スパンの空間を実現するために吊り屋根本体として計画。吊り屋根により、屋根は軽量化されるため、屋根を支持する本体、基礎を合理的に計画することが可能。

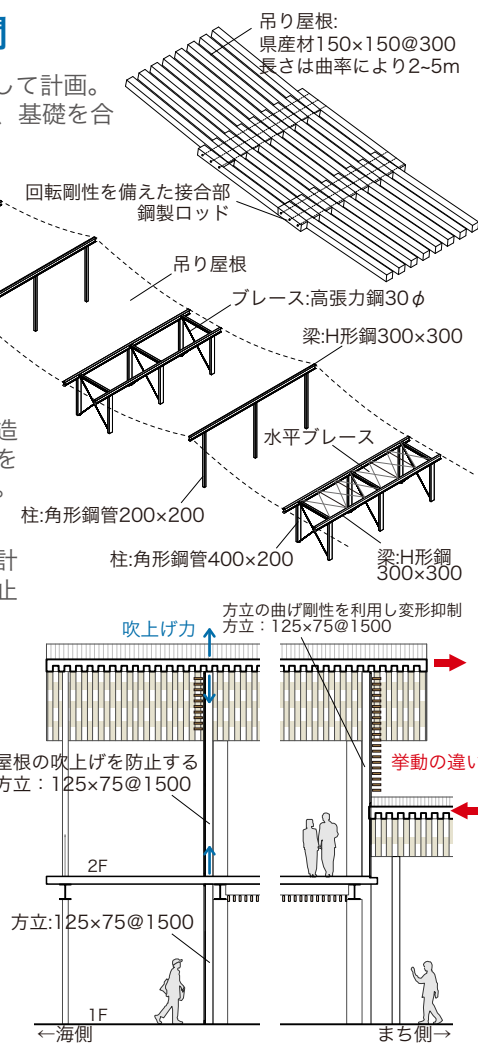
木による半剛性吊り屋根の提案：小断面の木材を重ね代を確保しつつ市松状に敷き並べ、縦横直交方向に配置した鋼製ロッドで一体化した吊り屋根。各部分材長さは曲率により2~5mとし、それぞれは三本のロッドで一体化。施工時には中央ロッドで純粋な吊り構造とし形態形成が容易。建て方後には側面のロッドを追加することで接合部に回転剛性を与え、半剛性吊り屋根として計画。

木造の乾燥収縮、クリープに対応した機構の設計：木材の乾燥収縮、経年変化（クリープ）現象を適切に評価し、構造検討。ひずみ量を把握し、長期的変位に対応した吊り元の接合部を設計し、将来的なボルトの増し締めによる形態調整が可能な機構。

合理的な連続吊り屋根の計画：吊り屋根を連続させることで、境界部で生じる大きな水平反力を打ち消し合う、合理的な架構を計画。スパンの違いや、変動荷重により吊り屋根の不安定現象を防止するため各スパンには水平抵抗要素を配置。

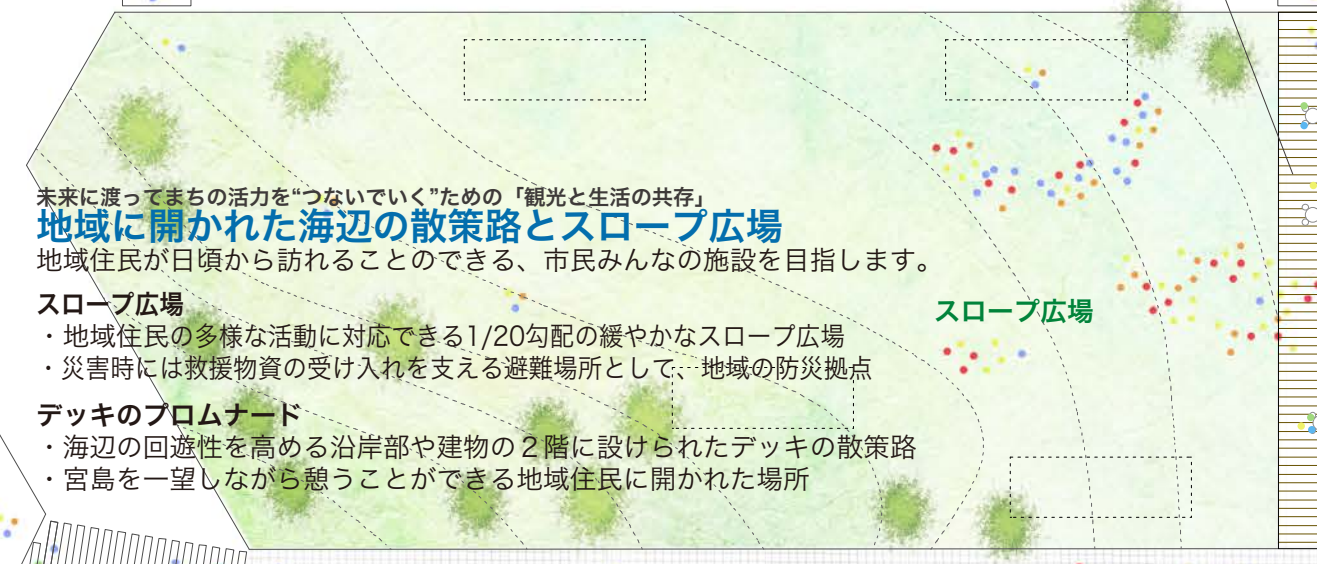
簡素な木造加工による地元部材、地元技術者の利用：孔あけ部のめり込み耐力に期待した吊り屋根として計画しているため、特殊な接合金物は不要。小断面木材の繰返し利用が可能であり、あわせてディテールの簡素化を計る。地元材、地元技術者を最大限有効活用した構造体として計画。

留意事項の検討について
方立てを变形抑制に利用した、挙動の少ない屋根の実現
・ガラスを支持する方立てを屋根の变形制御部材として利用。
・まち側と海側とで分かれた吊り屋根も方立てにより連結。
・各屋根の挙動の違いを抑制するように方立ての曲げ剛性を利用。
・暴風時の吹き上げや偏荷重によって生じる、屋根の浮き上がりや抑制。
・層間変形角を抑える事で二次部材の破損等を防止。



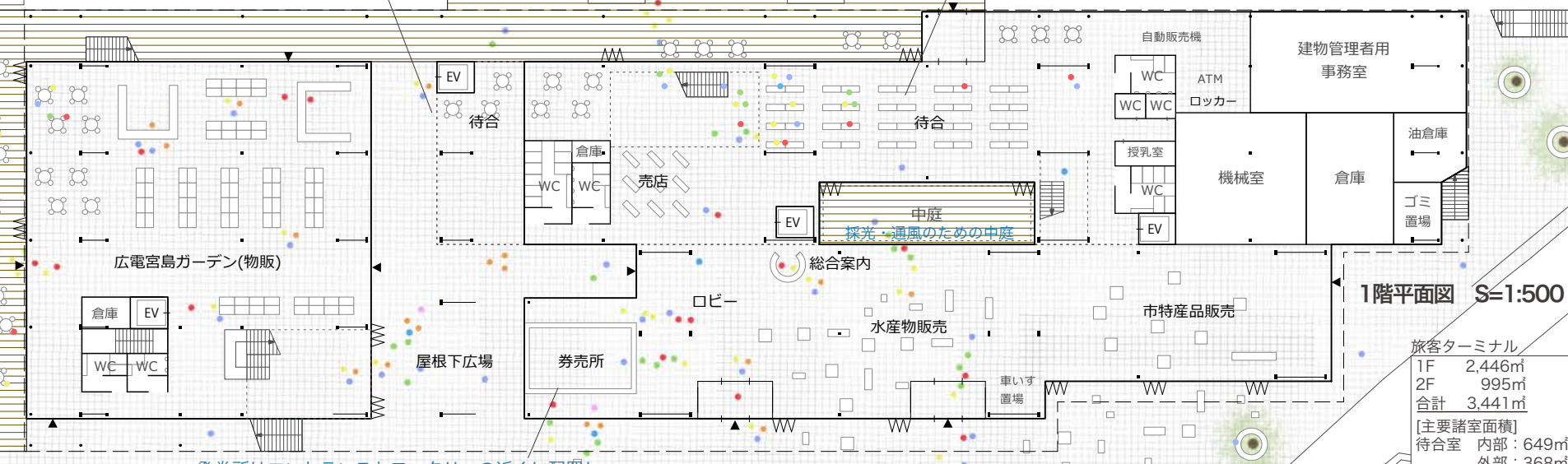
デッキのプロムナード

スロープ広場と広電宮島ガーデン1階の物販の間に位置するステージは様々なイベントなどに使える多目的なスペースとなります。



デッキのプロムナード

屋根下広場は外部の待合室としても利用できます。



まちとつながり賑わいを引き込む交流の結節点

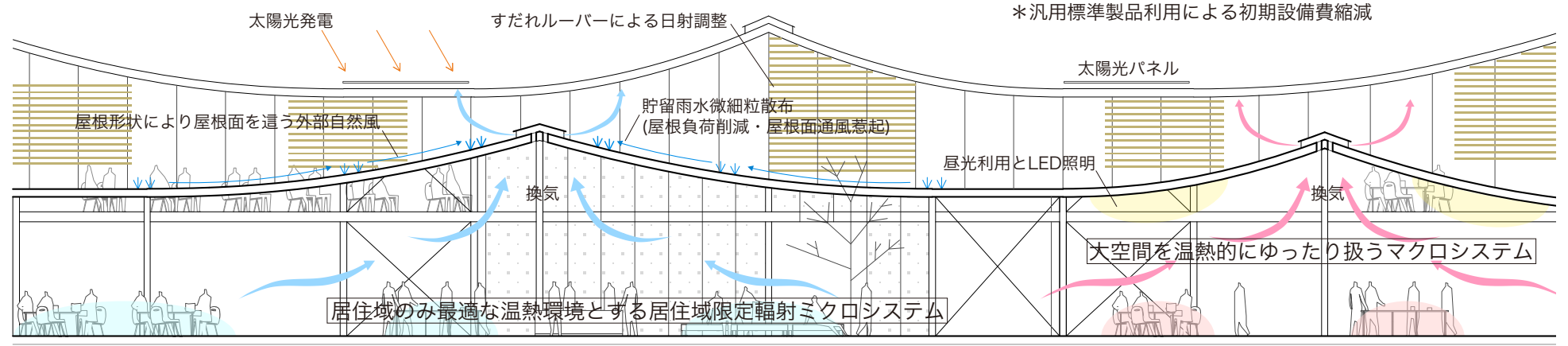
誰もが気軽に利用できる、市場のような広場を目指します。

賑わい広場
・JR宮島口駅、広電宮島口の人々を迎える「賑わい広場」
・物販やパブリックキッチンを設置することで、人の集いによる賑わいがまちへと連続
・建物と一体的な利用が可能

屋根下広場
・屋根のついた半屋外の空間によって団体の受入れが可能
・直接栈橋へ向かうことのできる通過動線
・広電宮島ガーデンと旅客ターミナルをつなぐ屋根下広場は人やものが半外部へ溢れ出し、まちに開かれた活動の場所

大屋根によるパッシブな環境制御

深い庇と外部設置で遮熱性に優れるすだれルーバーによって日射を調整し、自然換気・採光、LED照明の利用などランニングコストを可能な限り削減しながら、機械空調に頼りすぎない快適な環境を形成します。



- *エネルギー消費量を50%削減し、CASBEE最高ランクを取得
- *災害対応施設としての機能維持を具備
- *敷地内引込海水利用ヒートポンプで冷暖房・給湯熱源の確保
- *汎用標準製品利用による初期設備費削減

